ＪＲ東海労ニュース

№1592
2011年8月9日
ＪＲ東海労働組合

66年目の原爆の日・決意を新たに！
ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ナガサキ！ ノーモア・フクシマ！

原発なき社会へ議論を
長崎原爆の日

被爆から66年の原爆の日を迎え、平和祈念像の前で祈りをささげる遺族の女性たち＝9日午前、長崎市の平和公園で

８月６日広島、８月９日長崎、66年目の原爆の日を迎えました。

広島市長は平和祈念式において、米国を含め核保有国には核廃絶を求め、日本政府には「福島第一原発事故の現状を真摯に受け止め、早急にエネルギー政策を見直し、具体的な対応策を求め、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に全力を尽くす」という平和宣言を発しました。

また、菅首相は「原子力の『安全神話』を深く反省し、事故原因の徹底的な検証と安全確保のために抜本対策を講じ、原発への依存度を引き下げ『原発に依存しない社会』を目指す」と挨拶しました。しかし、一方で政府は、原発の海外輸出に対する答弁書において、「諸外国が希望する場合には、相手国の意向に踏まえ、世界最高水準の安全性を有するものを提供していく」と相手国の希望を前提に輸出継続を打ち出しています。安全な原発などないのです。このような政府の姿勢を見過ごすわけにはいきません。

福島第一原発事故後、放射線の不安から福島県から県内外へ既に転校した小中高生や希望者が14,000人を超え、このうち小学生は10,144人（小学生10人に１人）と伝えられています。今なお、多くの人たちが、放射能の恐怖の下におかれています。

一瞬にして、幾万の人々を殺傷した原爆。人の命、暮らし、故郷を奪い取った原発事故。広島、長崎に投下された原爆、福島原発事故は、改めて、「人類と核は共存できない」ことを示しました。

私たちの孫子に核兵器や原発の恐怖を引き継いではなりません。すべての核兵器の廃絶を！すべての原発の停止・廃炉へ！

原発を止めずに、核兵器廃絶はできない！